

# AIと社会の これからを考える

AI（人工知能）技術の実装が急速に進み、とりわけ生成AIが日常的に利用可能なものとして提供されるようになりました。今後は、AI（特に生成AI）が没入技術と結びつくことで、いわゆるメタバースでのAI利用が加速し、人間社会は大きな変革に直面することが確実であるとの見方もあります。

こうした技術の発展と普及は、社会に対して大きな便益をもたらすものですが、他方で、これまでは想定してこなかった新たな課題も生み出しています。

このシンポジウムでは、令和5年度科学技術に関する調査プロジェクト「デジタル時代の技術と社会」の成果を踏まえ、AI及びその関連技術についての現状と今後の課題について、各分野の専門家による報告とパネルディスカッションを通じて展望します。

令和6年  
**11月15日（金）**  
**14:00~17:00**

※オンライン開催

対象

テーマに関心をお持ちの  
研究者・専門家・実務者等

募集  
定員

300名  
先着順、参加費無料  
要申込み



# AIと社会のこれからを考える

## プログラム（予定）

### 開催挨拶・趣旨説明

ローラー ミカ  
国立国会図書館専門調査員・  
調査及び立法考査局文教科学技術調査室主任

### 問題提起 「AIと社会」概観

小塚 莊一郎氏  
学習院大学法学部教授  
国立国会図書館客員調査員

### 報告

#### (1) 大規模言語モデル (LLM) の光と影

荒瀬 由紀氏  
東京科学大学情報理工学院教授

#### (2) XR・メタバース最前線 —現実とデジタルが融け合う 空間コンピューティング時代へ—

久保田 瞬氏  
XRコンソーシアム事務局長

#### (3) AI技術と社会 —倫理・法・社会的課題 (ELSI) と 諸外国のAI規制の動向—

吉永 京子氏  
慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科特任准教授

#### (4) AI産業の振興

落合 孝文氏  
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業  
プロトタイプ政策研究所所長、  
弁護士（第二東京弁護士会所属）

### パネルディスカッション・質疑応答

(ファシリテータ 小塚 莊一郎氏)

### 閉会挨拶

澤田 大祐  
国立国会図書館調査及び立法考査局  
文教科学技術課科学技術室長

## 申込方法



国立国会図書館のイベント情報ページにアクセスし、  
必要事項をご記入の上、お申し込みください。  
下のURLまたは左のQRコードからアクセスできます。  
<https://www.ndl.go.jp/jp/event/index.html>

**申込締切 シンポジウム終了まで**

※定員になり次第締切とさせていただきます。

## ご参加の皆様へ（お願い）

- 配信映像の録音、録画、転載、転送はご遠慮ください。
- シンポジウムで使用するソフトウェアについての技術的なお問合せやサポートに主催者が応じることができません。何卒ご了承ください。

## お問合せ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局 調査企画課  
科学技術に関する調査プロジェクト シンポジウム担当  
電話：03-3581-2331（代表）  
メールアドレス：ml-st-project@ndl.go.jp



# 登壇者一覧

## ◇ファシリテータ



### 小塚 莊一郎 (こづか そういちろう)

学習院大学法学部教授、国立国会図書館客員調査員

千葉大学法経学部助教授、上智大学法科大学院教授等を経て、2010年から現職。博士（法学）。総務省「AIネットワーク社会推進会議」構成員、総務省「安心・安全なメタバースの実現に関する研究会」座長。専門は商法、会社法、科学技術と法。

関連著作：『AIの時代と法』（岩波書店、2019年）、「AI時代の法と規範」『生成AI時代の教養—技術と未来への21の問い—』（共著、風濤社、2024年）、「AIを用いたリーガルテックと契約法務」『学習院大学法学会雑誌』（学習院大学法学会、2023年9月）、「講演 メタバースとアバターの法的課題」『成蹊法学』（成蹊大学法学会、2023年）。

## ◇パネリスト（登壇順）



### 荒瀬 由紀 (あらせ ゆき)

東京科学大学情報理工学院教授

大阪大学大学院情報科学研究科准教授等を経て、2024年から現職。博士（情報科学）。専門は自然言語処理。言語処理学会理事、Executive committee member of Association of Computational Linguistics, Asian Federation of Natural Language Processing.

関連著作：『自然言語処理の基礎』（共著、オーム社、2022年）、「Self-Ensemble: 語彙制約を用いた複数出力候補の統合」『自然言語処理』（共著、言語処理学会、2024年6月）、「対話における間接的応答と直接的応答からなる言い換えコーパスの構築と分析」『自然言語処理』（共著、言語処理学会、2022年3月）



### 久保田 瞬 (くぼた しゅん)

一般社団法人XRコンソーシアム事務局長

一般社団法人VRMコンソーシアム理事、株式会社Mogura 代表取締役、「Mogura VR」編集長、XRジャーナリスト

慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、環境省入省。2015年にVRやAR、メタバースの専門メディア「Mogura VR」を立ち上げ、株式会社Moguraを創業。この分野が社会を変えていく無限の可能性に魅了され、それを広げる事業を展開している。XR/メタバースの動向分析、コンサルティングが専門。現在は子育てをしながら事業推進に、講演にと奮闘中。

関連著書：『メタバース未来戦略—現実と仮想世界が融け合うビジネスの羅針盤—』（共著、日経BP、2022年）



### 吉永 京子 (よしなが きょうこ)

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授

三菱総合研究所（2010-11年はYale ISP Visiting Fellow）を経て、2023年10月から現職。修士（法学）。ジョージタウン大学ロースクールテクノロジー法・政策研究所ノンレジデントフェロー、東京大学IFI客員研究員、OECD GPAI専門家委員。経済産業省「AI事業者ガイドライン検討会」委員。専門は情報法、情報通信・セキュリティ政策、AIのガバナンス、法と倫理。

関連著作：『責任あるAIとルール』（共著、金融財政事情研究会、2024年）、「教育現場における生成AIの活用—米国ロースクールにおける生成AIの取り組みの紹介と法学教育における生成AI利活用に関する一考察—」（特集/生成AIの法的課題と実務）」有斐閣Online（2024年1月29日）、「米国におけるプロファイリング関連制度」『AIプロファイリングの法律問題：AI時代の個人情報・プライバシー』（商事法務、2023年）



### 落合 孝文 (おちあい たかふみ)

渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長、弁護士（第二東京弁護士会所属）

2006年弁護士登録（第二東京弁護士会）。森・濱田松本法律事務所を経て、2015年から現職。内閣府規制改革推進会議委員（スタートアップDXWG WG座長、公共WG委員）（2019年12月から専門委員、2023年10月から現職）、デジタル庁、経済産業省及び国土交通省「AI時代における自動運転車の社会的ルールの在り方検討サブワーキンググループ」構成員（2023年12月から）、総務省AIネットワーク社会推進会議ガバナンス検討会委員（2020年11月から）、スマートガバナンス株式会社代表取締役共同創業者。

関連著作：「巨大IT新法の論点 公取委、「宿題」はセキュリティ対策」NIKKEI Digital Governance（2024年5月14日）、「金融サービスのデジタル化におけるルール形成の課題」『デジタル化社会の進展と法のデザイン』（商事法務、2023年）、「スタートアップ支援を取り巻く現状と今後の展望」『法律のひろば』（ぎょうせい、2023年12月）

## ◇開催趣旨説明



### ローラー ミカ

国立国会図書館専門調査員・調査及び立法考査局文教科学技術調査室主任

1987年入館。国会官庁資料調査室主任、海外立法情報調査室主任を経て、2024年4月から現職。

関連著作：「アメリカ：ソーシャルメディア等から児童を保護する法律—連邦法COPPA及び新たに制定された州法を中心に—」『外国の立法』（2023年12月）、「アメリカ：AIの安全な開発及び利用に関する大統領令」『外国の立法』（2024年1月）